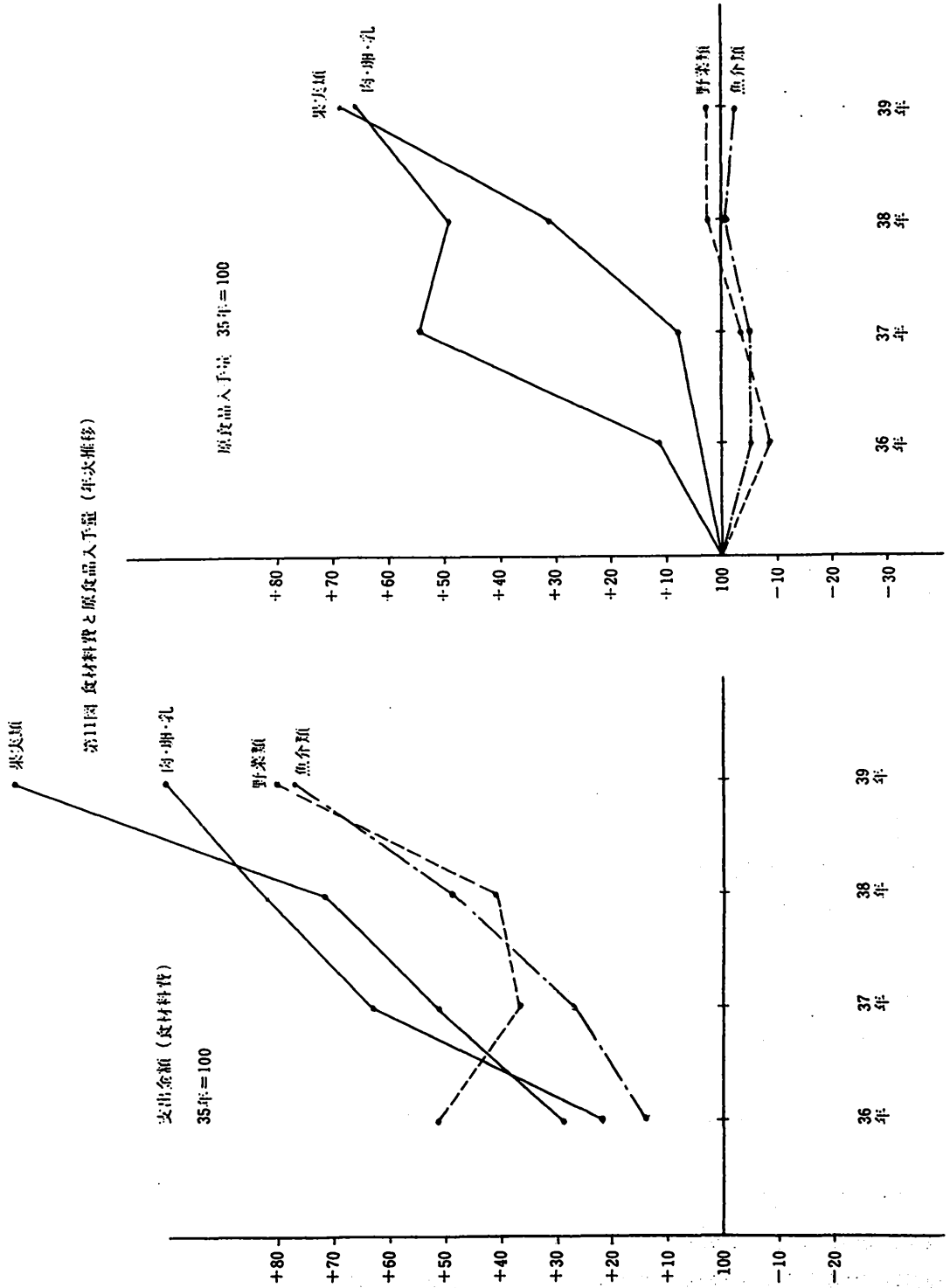


E 食 材 料 費

国民栄養調査でいう食材料費とは、摂取した全食品量について、購入、自家生産、もらいもの等の別を問わず、すべて調査地区の平均小売価格に換算して1人1日当たりの平均として計上したものである。



1. 全国平均

昭和39年度の全国1人1日当り食材料費は180.16円で前年度に比べて1割以上増加している。

第18表 食品群別食材料費年次推移 (昭和35年を指数100として)

			37年	38年	39年
総額		額	127.3	140.3	160.5
穀類		類	105.5	114.0	116.1
いも類		類	120.3	138.4	190.0
油類		類	135.5	144.2	138.1
豆類		類	126.1	128.8	152.9
魚介類		類	125.6	145.8	183.5
肉・卵・乳類		類	157.1	172.2	188.6
野菜類		類	212.2	226.4	265.4
果実類		類	154.1	172.2	255.9
その他		他	108.3	122.0	138.5

第19表 食品群別食材料費構成比 単位：%

			金額(円)	構成比(%)	対前年比(%)
総額		額	180.16	100.0	(+)15.2
穀類		類	43.15	24.2	(+)2.4
いも類		類	5.15	2.9	(+)4.7
油類		類	2.50	1.4	(+)2.9
豆類		類	8.61	4.8	(+)15.4
魚介類		類	27.64	15.3	(+)19.0
肉・卵・乳類		類	30.01	16.7	(+)10.0
野菜類		類	18.92	10.5	(+)28.1
果実類		類	15.56	8.6	(+)41.7
その他		他	28.26	15.7	(+)14.0

このうち動物性食品の入手に要した費用は57.65円で前年度の49.36円を上回っている。

食品群別に構成比をみると穀類が24.2%で最も高く、次いで獣鳥鯨肉類、卵類、乳・乳製品の16.7%、魚介類15.3%、野菜類10.5%、果実類8.6%となっている。

なお、年次推移をみると第11図のとおり、この数年間に野菜類及び魚介類の値上りが目立っている。

また、階層別食材料費については、食材料費の基礎になる食品の値段が、調査地区の平均的小売価格であるため、低所得者にはより高い値が、高所得者にはより低い値があらわれているので、一概に評価できない。

2. 業態別食材料費

昭和39年度の食材料費を業態別にみると、非農家世帯の食材料費は194.83円で農家世帯の149.80円を大幅に上回っている。

業態別に食材料費の年次推移をみると食材料費はかなり伸びているが、各業態間にはかなりの差が認められる。

(イ) 農家世帯

農家世帯の食材料費は149.80円である。

食品群別に支出構成をみると穀類が30.6%で最も高く、非農家世帯の21.8%を大幅に上回っており、次

第20表 業 態 別 食 材 料 費 お よ び 比 率

	金 額 (円)		構 成 比 (%)		対 前 年 比 (%)	
	農 家 世 帯	非 農 家 世 帯	農 家 世 帯	非 農 家 世 帯	農 家 世 帯	非 農 家 世 帯
総 額	149.80	194.83	100	100	(+)14.7	(+)14.0
穀 類	45.82	42.38	30.6	21.8	(+) 6.7	(+) 2.0
い も 類	5.73	4.87	3.8	2.5	(+) 8.3	(+) 3.4
油 脂 類	1.55	2.96	1.1	1.5	(+) 4.7	(+) 1.4
豆 類	8.45	8.69	5.7	4.5	(+)16.4	(+)14.3
魚 介 類	21.91	30.40	14.6	15.6	(+)14.3	(+)20.6
肉 ・ 卵 ・ 乳	15.35	37.12	10.2	19.1	(+) 1.4	(+) 7.3
野 菜 類	17.03	19.84	11.4	10.1	(+)22.5	(+)28.8
果 実 類	11.44	17.55	7.6	9.0	(+)38.5	(+)39.2
そ の 他	22.51	31.05	15.0	16.0	(+)19.2	(+)10.1

いで魚介類14.6%、野菜類11.4%、肉卵乳類10.2%となっている。

次に農家世帯を細分した結果についてみると常用勤労者のいる農家世帯が155.58円で最も高く、食品群別にみると肉卵乳類及び調味嗜好食品を主とする其他食品の支出が他の農家世帯を上回っている。

農家世帯の中でも専業主婦の食材料費は146.25円で最も低く、動物性食品、果実類等の支出が他業態に比べて下回っている。

(ロ) 非農家世帯

非農家世帯の食材料費は194.83円である。

食品群別に支出構成をみると穀類が21.8%で最も高く次いで肉卵乳類19.1%が調味嗜好品等の其他食品が魚介類15.6%、野菜類10.1%となっており、其他食品が上位を占めていることが目立っている。

次に非農家世帯を細分調査した結果についてみると常用勤労者世帯が199.46円で最も高く、次いで事業経営者世帯は196.62円となっているが、非農家世帯の中でも日雇・家内労働者世帯は155.72円である。

食品群別にみると常用勤労者世帯と事業経営者世帯は肉卵乳類、魚介類、其他食品の支出金額が他の業態を大きく引きはなしているのが目立っている。

3. 支出階層別食材料費

1人1日当りの食費は、第Ⅰ階層137円79銭 第Ⅱ階層178円79銭 第Ⅲ階層226円61銭 第Ⅳ階層257円21銭、第Ⅴ階層286円18銭となっており、第Ⅱ階層5,000円～9,999円の階層が全国平均にはほぼ等しい。

4. 地域ブロック別食材料費

地域ブロック別の食材料費についてみると七大都市が226.70円で最も高く全国平均を(+)25.8%上回っている。次いで近畿・中国は188.97円で全国平均を(+)4.9%、関東・甲信は184.94円で全国平均を(+)2.7%と上回っているが、その他の地域については、全国平均食材料費に比べて、東海・北陸・越は(-)6.0%、北海道・東北は(-)9.2%、四国・九州は(-)17.8%といずれも下回っている。

F 身体 の 状 況

1. 栄養欠陥による身体症候

昭和39年度における国民の栄養欠陥に関係があると考えられる身体症候の発現率(有症者の割合)は